TOMO DACHI

TOMODACHIイニシアチブ 2021 活動報告書

次世代リーダー育成を目指して

親愛なる友人のみなさま、

2021年活動報告書を通して、在日米国大使館と米日カウンシルは、昨年とこれまでの10年間のTOMODACHIイニシアチブの成果と軌跡を振り返ります。TOMODACHIは、東日本大震災後の復興と再建を担う、最も持続的で充実した成果を挙げた官民パートナーシップの一つとなりました。

TOMODACHIは創設以来、9,800名を超える日米の若者を対象にさまざまな教育、文化交流事業、およびリーダーシップ研修を実施して参りました。これらのプログラムを通じて、彼らが太平洋を越えて友情を築き、グローバルな思考と、大きな課題が山積する世界に貢献し活躍するために必要なスキルを身につけ、将来に向けて日米関係を強化する機会を提供しました。

2021年は引き続き渡航が厳しく制限される状況が続きました。しかし、TOMODACHIは歩みを止めることなく、東北地方の持続可能な開発目標（SDGs）に焦点を当てた新規プログラムや、多様なテーマを扱うアラムナイ・プログラムを含め、数々のプログラムをオンラインで実施しました。3月11日には、米日カウンシルは、多くのパートナー団体とともに震災10周年の記念イベントを開催しました。両国の現職大使や大使経験者、その他の著名な講師とともに、二人のTOMODACHIアラムナイが登壇し、東北の復興や日米関係のレジリエンス、未来への確信などについてスピーチを行ったことを私たちは誇らしく思いました。

トモダチ作戦で米軍と自衛隊の友情の精神が、協調的で人道的な救援活動を実現したように、TOMODACHIイニシアチブは、人生を変えるような経験や協力し合うことを学ぶプログラムを通して、「TOMODACHI世代」のリーダーを育成してきました。アラムナイは、新しいビジネスやパートナーシップを立ち上げたり、彼らの声を届けるほかの方法を見つけたりしています。米日カウンシルが主催した次世代サミット2021の基調講演では、アラムナイのひとりが「私たちはだれもが、毎日、毎回、なにかを購入したり、対話をするたびに、私たちの周りに大きな影響を与えています。私たちは未来のリーダーであるという意識を変えましょう。私たちは今すでに、リーダーなのです」と語りました。

震災の深い悲しみの中にある若者に、希望と生きる意味を取り戻すという共通のビジョンのもとに集ってくださった日本政府、TOMODACHIイニシアチブの創設者、スポンサー、実施運営団体、そしてそのほかの団体や支援者の皆さまに深く感謝申し上げます。11年の時を経て、在日米国大使館と米日カウンシルは、これまで以上に日米関係を強化し、TOMODACHIを通じて次世代のリーダーを支援することに尽力してまいります。

駐日米国大使
ラーム・エマニュエル

米日カウンシル 会長兼CEO
スザンヌ・バサラ

「TOMODACHIは私のモチベーションです。TOMODACHIを通して多くの人たちと繋がることによって、勇気、インスピレーション、アイデア、知識を与えていただき、目標を見失わず、自分の夢を実現することが出来ました。」

田島桃子氏

使命

TOMODACHIイニシアチブは、米日カウンシルと在日米国大使館が主導する官民パートナーシップで、日本国政府の支援も受けています。東日本大震災後の復興支援として発足され、教育・文化交流・リーダーシップ育成などのプログラムを通して、日米の次世代リーダー育成を目指します。

背景

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、米軍と自衛隊は「トモダチ作戦」を通じて東北地方への緊急人道救援活動で協力し、成功を収めました。この時の協力と友情の精神を基盤に、米国と日本はTOMODACHIイニシアチブを開始しました。TOMODACHIは在日米国大使館と米日カウンシルが主導し、日本国政府の支援の下、日米両国の企業、組織、個人から協力を受け、運営されています。

ビジョン

日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、さらには、より協力的で繁栄した安全な世界へ貢献するために、また、そうした世界で成功を収めるために必要とされている、技術と国際的な視点を備えた日米の次世代リーダーである「TOMODACHI世代」の育成を目指しています。

将来

TOMODACHIイニチアチブは、革新的な官民パートナーシップの模範としての役割を今後も果たしていきます。そして、「TOMODACHI世代」を育成するアラムナイ（プログラム経験者）・プログラムなど、異文化交流を通じて日米の若手リーダーを育成する各種プログラムを企画・構築し、日米関係を支援する企業・団体とのパートナーシップを拡大していきます。

プログラム

教育プログラムは、短・中・長期の留学体験を通じ、互いの文化に触れることで、日米両国の若者の交流を活性化また拡大し、彼らの人生に刺激を与えます。

文化交流プログラムは、スポーツや音楽、芸術の分野において、日米両国の若者が、相互の国の文化を学び、関心を継続していくためのきっかけを提供します。

リーダーシップ・プログラムは、次世代のリーダーとして、成功を収めるためのスキルや専門知識を得る機会を提供します。

アラムナイ・プログラムは、TOMODACHIの経験を基に実施されるプログラムです。日米の若者たちが経験、スキルや自信を身に付けることで、インスピレーションと活力を得て、夢を実現し、より良い世界の構築に貢献できる人材となるよう支援します。

TOMODACHIの生涯にわたる道のり

TOMODACHIは日米の次世代リーダー育成に焦点を当て、異文化交流などの一連の体験を通じて若手リーダーの育成を支援しています

TOMODACHIアラムナイ（プログラム経験者）ネットワーク

異文化リーダー成長過程

異文化体験	インスピレーション	学習	アラムナイ
異文化との初めての接触 次世代の若者に日米関係を紹介	人生の転機となる異文化体験 若者の異文化体験	知的好奇心を満たす学びの機会 社会貢献や地域社会での活動	次世代リーダーの育成 起業家精神育成プログラム 女性のためのメンターシッププログラム

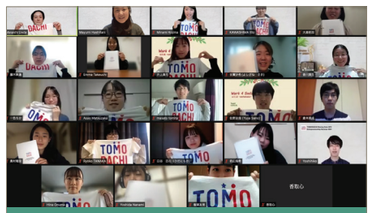
ストラテジック・パートナー

持続的にインパクトをもたらすパートナーシップ

TOMODACHIイニシアチブのストラテジック・パートナーは、人生が変わるような機会を提供するカスタマイズされたプログラムを通じて、参加者の人生にプラスの影響を与える継続的なサポートをしています。2021年には、中学生から若手社会人まで、268名がさまざまなストラテジック・パートナープログラムに参加しました。
これらのユニークなプログラムは、参加者がグローバルな専門知識やリーダーシップスキルを身につけ、持続的な関係や人脈を構築する機会を提供します。プログラム終了後も、「TOMODACHI世代」の多様な参加者は、アラムナイイベント、ワークショップ、プログラムに参加することで、参加者同士の力を引き出し、力を与えています。

TOMODACHI 日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラム

2019年より開始した本プログラムは、観光産業を中心とした東北地方の活性化を目指す次世代リーダーを育成することを目的としています。日本と米国での研修を通じて、参加者が地域の魅力を再発見し、街を活性化していきます。また、米国では現地の学生との交流から、それぞれの地域社会で独自のプロジェクトを開発することに至りました。

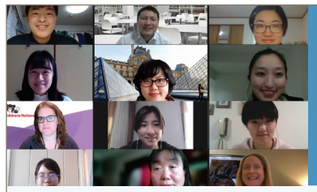


TOMODACHI Boeing Keio SFC Entrepreneurship Seminar

東日本大震災後、日本の未来を担う若者を育成するために始まった起業家育成プログラムは、今年で10年目を迎えました。オンラインで行われたこのセミナーでは、参加者がグループに分かれてビジネスプランを作成し、それを現実するために努力しました。プログラム最後のオンライン会議では、起業家やプログラム関係者を前に自分たちのビジネスプランを発表しました。

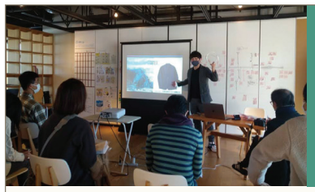
Building the TOMODACHI Generation: *Morgan Stanley Ambassadors Program*

今年度のプログラムの一環として、8つのセッションからなるオンラインアラムナイブートキャンプが開催されました。キャリア選択や職場で必要なスキルなど、重要なコンセプトが議論されました。ここでは、渡米が制限されたにも関わらず、充実した対談をすることができました。また、モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社の社員やプログラム卒業生のサポートにより、充実した議論が行われ、参加者に力を与えました。



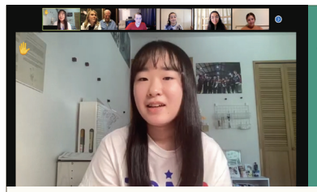
TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム

2015年に設立された、看護学生向け災害看護の知識を深めるプログラムです。本年度は、「事前研修」「米国研修」「事後研修および報告会」の3つのプログラムを、オリジナル形式でバーチャル開催しました。選ばれた8名の参加者の今後の活躍と、災害看護の分野の深化に期待が寄せられています。



TOMODACHI ファミリーマート SDGs リーダーシッププログラム in 東北～東北から全国へ、そして世界へ～

東北の課題解決に意欲的な若者を対象に、5カ月間のバーチャルプログラムを実施しました。「応援しあう東北アカデミー」「アクションコース」「応援しあう東北スペシャルライブ」の3つのパートに分けられ、参加者は、東北の仲間と出会い、アクションを起こし、プレゼンテーションを行い、生放送番組に参加するなど、東北に持続可能なインパクトを残しました。

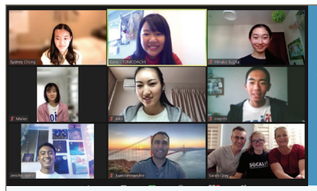


TOMODACHIローソン 女子高校生キャリアメンタリングプログラム in 東北

岩手・宮城・福島の高校1・2年の女子生徒を対象に行われた、5カ月間のオンラインプログラムは、ワークショップ、留学生や社会人との交流、同級生によるプレゼンテーションなど、将来のキャリアをサポートする内容で構成されています。学生の将来性を高めると同時に、東北地方のリーダー育成を支援しています。

TOMODACHI MetLife Women's Leadership Program

10カ月にわたるこのプログラムは、大阪、東京、福岡、那覇、札幌にてバーチャル開催されました。メンター制度、自分のリーダーシップスタイルについての考察、米国研修、グループプロジェクトなど数多くのセッションが行われ、参加者は自己認識、コラボレーション、ペイフォーワード(Pay it forward)、グローバルな視点、レジリエンスなど、将来の職場で役立つ必須スキルを獲得しました。



TOMODACHI MUFG 国際交流プログラム

今年度は、東北地方の中高生を対象に、バーチャル留学を実施しました。参加者はバーチャル留学を通して日系人の歴史に没頭し、グローバルなスキルと自信を身につけました。また、カリフォルニアに住む家族との交流や、英語での自己紹介ビデオの作成を通じて、グローバルリーダーとして活躍するための英語力を身につけました。

TOMODACHI住友商事 奨学金プログラム

海外留学に対する経済的支援を必要とする10名の学生を対象に、1年間の奨学金プログラムを実施しました。7月には、奨学生全員が授与式に参加し留学の目標を発表しました。このプログラムの参加者と卒業生によって日米の関係が強化され、またグローバルな視野を持ったリーダーとして模範となっています。

TOMODACHIサマー ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム

2012年に設立されたこのプログラムは、東日本大震災で被災した日本人生徒を対象に、カリフォルニア大学バークレー校で3週間にわたりリーダーシップスキルを学ぶことを目的としています。交流、現地調査、文化に触れることで、自分たちがどのように故郷を支えることができるのか、見識を深めることができました。

TOMODACHI-UNIQLO フェローシップ

このプログラムは、日本のビジネスとファッションの次世代リーダーを対象に、ファッションに関する米国のトップレベルの大学院教育を提供するものです。2021年は新型コロナウイルス感染症の流行という困難な状況にもかかわらず、3名がプログラムを修了し卒業しました。

文化を超えた
リーダーの育成

TOMODACHIの教育交流、リーダーシップ育成、異文化理解など、幅広いプログラムに対して、スポンサー、サポーターの皆様からのご寄付をいただいています。2021年には、一般寄付プログラムを通じて4つの多様なプログラムが実施され、83名の参加者が日米両国への理解を深めるとともに、自身のリーダーシップのあり方を考える機会を得ました。

TOMODACHI インターンシップ・プログラム

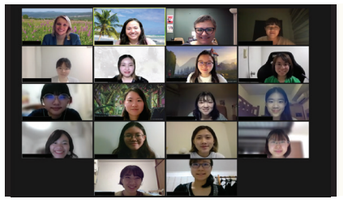
2021年、日本でのインターンシップを終えた5名のアメリカ人大学生とのオンライン報告会を開催しました。アメリカ大使館とテンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）の支援により、参加者はスキルを身につけ、日本文化を学び、日本での生活で体験したことを共有することができました。

TOMODACHI カケハシ イノウエ・スカラーズ プログラム

ハワード大学、オクラホマ州ノースイースタン大学は、敬和学園大学、北海道大学とペアを組みました。学生達は伝統的な課題である先住民の文化を学び、日本の歴史を探求することができました。また、グループでのプレゼンテーションやスモールディスカッションを通じて、文化や学生同士の知識を深めることができました。

TOMODACHI Story Jam for Youth with Disabilities

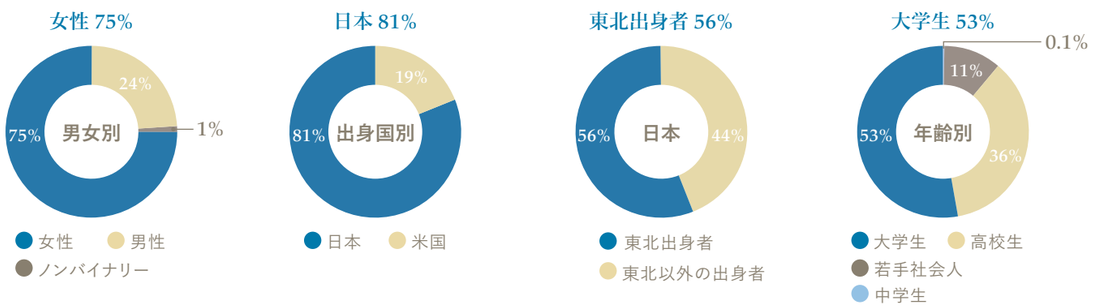
このデジタルストーリーテリングとリーダーシップのプログラムは、障がいのある日米の若い社会人や学生10名を対象に開催されました。障がい者ジャーナリスト、ソーシャルメディアインフルエンサー、支援者、活動家などのゲスト講師がそれぞれの経験を語り、若者たちに変化を起こすよう働きかけ、世界に向けて自分のストーリーを発信するよう促しました。



TOMODACHI-STEM Women's Leadership and Research Program

このプログラムは、日本の女子大学生にインターンシップや文化・リーダーシップのプログラムを提供するものです。バーチャルでワークショップやセッションを実施し、米国で行われる対面式のインターンシップ、研究グループ、自己開発ツールの完成など米国での生活や研究の準備をおこないました。

2021年参加者の内訳



パンデミックでも
揺るがぬインパクト

藤原凜

TOMODACHIプログラムに参加するまでは、東日本大震災の被災経験に触れることを避けてきました。しかし、TOMODACHIプログラムをきっかけに今まで抱えてきた震災に対する思いと向き合い、将来の仕事に生かしたいと思いました。

「お互いに尊敬し認め合いながら意見を交わすTOMODACHIの場は、私に自信を与えました」

プログラムに加えて大学での生活に追われる中、すべてのことを完璧にできない自分を責めました。しかしプログラム中、完璧を目指さなくても良い、人には限界があり出来る範囲のことを考え、実行する能力を養いました。看護師として仕事をはじめたいま、慣れない環境に必死に食らいつく中でも、この教訓を大切にしています。
私にとってTOMODACHIとは、人との繋がりやお互いを尊重し学び、そして成長できる場所です。

大橋ノア

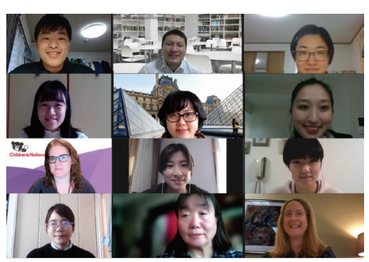
TOMODACHIプログラムで、なにを伝えるかではなく、なぜ伝えるかが最も重要であると学びました。私が伝える意味を深く掘り下げると、私の伝えたいことは、日本・アメリカの障がいを持つ人々における「インターセクショナリティー」の課題だと確信しました。私はこの言葉を「交差するアイデンティティ」と訳します。例えば、交差点の真ん中に立つ人が、一方向からくる「性の差別」というバスに轢かれそうになったかと思えば、別の方向からくる「障がいの差別」という別の車に轢かれそうになるような体験を指します。しかし、これらのアイデンティティのすべてはその人の誇りでもあります。私自身の話として、みんなの前で話すのは初めてだったので緊張しましたが、安全な場で話をすることができ、自信に繋がりました。

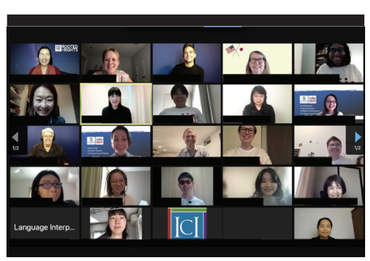
「私にしか語ることのないストーリーで、日本とアメリカの未来を作っていきたいです」

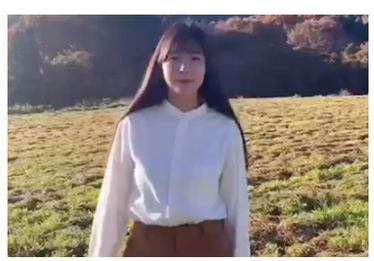
藤井万佑子

私が中学校卒業の時期にコロナの影響が広がり始め、学校がすぐに休校になりました。高校生活もずっとコロナの影響を受け、楽しみにしていた海外研修も中止となり、大好きな英語を使う機会が限られていました。日常では英語で初対面の人と話したり、自分のことを話す機会はほとんどありませんが、TOMODACHIプログラムを通じてオンラインでアメリカの方と交流ができ、彼らと過ごす時間を心から楽しみました。また、プログラムに参加するまでは、リーダーは生まれながらの資質だと思っていましたが、プログラムに参加して日系アメリカ人の歴史を学ぶことで、だれもがリーダーシップを発揮し世界をより良い場所に変えることができるのだと知りました。

「TOMODACHIは、自分の人生がより豊かになる選択肢を増やしてくれました」







継続的な関わり

2021年、TOMODACHIは50以上のアラムナイプログラム、イベントを実施し、1000名以上のアラムナイが参加しました。多様なプログラムが実施された2021年は、コミュニティ・プラットフォームおよび関係者とのエンゲージメントが向上しました。具体的なイベントとしては、TOMODACHI世代グローバル・リーダーシップ・アカデミー、次世代サミット、TOMODACHI RISEリーダーシップ・プログラム、TOMO-KINギャザリング、米国領事館や日本大使館とのイベントでした。

2011年3月11日に発生した東日本大震災から10年目を迎え、TOMODACHIは、この日を振り返り、さまざまなイベントやプログラムを開催してきました。3月11日には、米日カウンシルをはじめとするパートナー団体が、震災で失われた人命を悼み、日米同盟の将来について話し合うイベントを開催しました。また別で行われたUnshakable Friendshipというイベントでは、東北出身のアラムナイが、震災の記憶や故郷の復興に向けた取り組みについて語りました。これらのイベントに加え、ニューヨークではTOMODACHIイニシアチブ10周年を記念したイベントも開催されました。TOMODACHIの10周年を記念して、東北地方にゆかりを持つ2名のアラムナイがTOMODACHIでの経験を振り返るスピーチを行いました。TOMODACHIアラムナイ・プログラムは、プルデンシャル財団の寛大な支援により実現しました。

TOMODACHIアラムナイ・プログラム4つの柱

社会に出る準備

メンタリングやアラムナイ同士の交流を通して、次世代のリーダーとして必要な知識やスキルを身に付ける機会を提供し、実力を備えたグローバル人材となるよう支援します。

クリティカル&イノベーティブ・シンキング

既成概念に捉われない、時に批判的で革新的な考え方を学び、21世紀の成功と繁栄に不可欠な、優れた課題解決スキルを養います。

市民活動

TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。

つながりと継続性

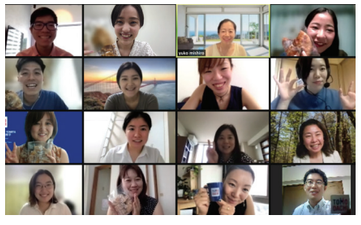
TOMODACHI世代の一員として、アラムナイ同士が交流する中で、さらにネットワークを拡大し、地域の一員として、そしてリーダーとして、人と人とのつながりを生かしていきます。

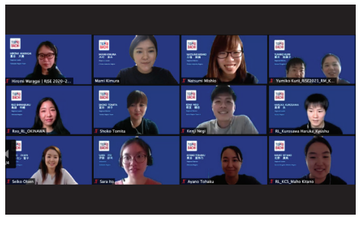
「TOMODACHI世代の私たちの責任の一部として、日米関係の未来を再定義するだけでなく、他の若者たちが障壁を打ち破り、意見を言えるようにすることです。」

トリスタン・ノーマン氏

アラムナイハイライト

TOMODACHI Regional Impact for Social Empowerment（RISE）リーダーシップ・プログラム



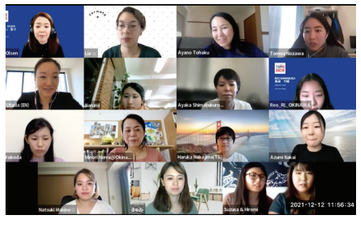


このプログラムは、日本の6つの地域のTOMODACHIアラムナイに再会の機会を提供し、勇気づけ、インスピレーションを与えるために作られました。2021年に開催されたこのプログラムでは、3月に3日間、オンライン形式でオリエンテーションが行われ、グループディスカッション、ゲストスピーカー、歴代のリーダーやメンターからも意見を伺いました。6月のウェルカムイベントに続き、7月には「Looking Back, Looking Forward: Exploring Opportunities for Social Impact Across Japan」が開催され、100名以上が参加しました。12月には、「次世代サミット2021」の2日目に、米国へのプログラム展開を視野に入れた「TOMODACHIアラムナイ地域フレームワーク テーマイベント」を開催しました。

TOMODACHI 世代グローバル・リーダーシップ・アカデミー

2013年に始まったこの2週間のアラムナイ・プログラムは、今年もオンラインで実施されました。主に夏休み中、米国に留学した東北のTOMODACHIアラムナイを対象に、高校生と大学生がオンラインで集まり、危機と持続可能性が課題とされる時代における意思決定力を強化しました。このプログラムは3つのセッションに分かれており、最後にグループ発表が行われました。プログラム全体を通して、文化交流セッションや東北のリーダー達による体験談の発表があり、多くのアラムナイやゲストは、アラムナイによるプレゼンテーションを拝聴しました。

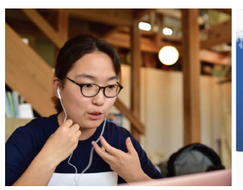
次世代サミット



12月に開催された「Ideas to Action: Breaking Barriers for Sustainable Community with Enduring Value」と題された2日間のプログラムは、米日カウンシルの2021年シグネチャーシリーズの一環のプログラムです。TOMODACHIアラムナイ、U40のメンバー、渡邉奨学金の奨学生が参加し、それぞれの世代が持つ意義について意見交換をしました。日米関係について議論しながら、参加者は「気候変動とサステナビリティ」「インクルージョンとダイバーシティ」「教育改革と若者のエンパワーメント」の3つのパネルディスカッションから選んで参加しました。この2日間のプログラムを通じて、参加者達は自分たちの将来について視野を広げることができました。

その他のプログラム

TOMODACHI アラムナイ インターンシッププログラム | 米日カウンシル ビジネス・アドバイザリー・ボードミーティング | キャリアトーク | TOMO-KIN ギャザリング



Q&Alumni

大城 和輝

「TOMODACHIに関わるすべての人が、恩返しをすることができると信じています」

大城和輝氏は、沖縄の持続可能な観光開発と、「住んでよし訪れてよし」の環境づくりに情熱を注いでいます。TOMODACHIのプログラムを通じて、ハワイで1年間観光学を学びました。米国で学んだことを生かし、沖縄ならではの観光資源を量から質へと高めていくことを志しています。 人と人との交流や観光の面で、日米の架け橋になりたいというビジョンを持っています。

TOMODACHIプログラムでの経験で、大城氏の進路や今の活動に影響を与えていることは何ですか?

最も重要なことは、私の考え方や物事の捉え方が劇的に変化したことです。プログラムを通じて出会った人たちのおかげで、受け身でいることなく、失敗を恐れず、アンテナを広げることができました。沖縄の観光に何が必要なのか、身をもって体験することができました。

大城さんにとって、TOMODACHIとは?

TOMODACHIは、私にとってさまざまな意味をもっています。ひとつは、互いに高め合い、刺激し合える場であり、もうひとつは、私たちのモチベーションを高める原動力となるものです。特に、TOMODACHIのプログラムに参加したTOMODACHIアラムナイ(プログラム経験者)の多くは、自己成長に対して貪欲で、会うたびに刺激を受け、モチベーションが上がると感じています。

学生や若手社会人、他のアラムナイに伝えたいことやアドバイスをお願いします。

TOMODACHIのプログラムに参加する中で、“giving back”という言葉がとても印象に残りました。TOMODACHIアラムナイの皆さんも一緒になって、恩返しができるような人間になれるといいですね。そして、これからTOMODACHIのプログラムに参加する新しい仲間を応援できればうれしいです。

村上 日奈子

「日本とアメリカや世界の架け橋となりたい」

村上日奈子氏が小学6年生のとき、故郷である宮城県石巻市が2011年の東日本大震災で被災しました。その時、支援に訪れた外国人を前に、「ありがとう」さえも英語で伝えられない難しさを感じました。この経験から、英語を勉強したいという気持ちが強くなり、高校でTOMODACHIのプログラムに参加した後、カリフォルニア州に留学するために飛び立ちました。

TOMODACHIのプログラムで学んだことは何ですか?

プログラムでは、リーダーシップ、社会奉仕、地域の力を高めることについて学びました。東日本大震災で多くのものを失いましたが、TOMODACHIプログラムのおかげで、被災経験についてより多くの情報を発信し、世界中に橋を架けるための体験に変えることができました。

将来の目標は何ですか?

カリフォルニア州のコミュニティカレッジに通っていた頃、アーバインにある日本食レストランを訪れました。そこで驚いたのは、私の故郷である宮城県産のマコカレイ、金華さばが出てきたことです。これをきっかけに、故郷の漁業に貢献したい、石巻のおいしい海産物を広めるために何かできないか、と考えるようになりました。この経験から、私は日米の架け橋になりたいと思うようになりました。

学生や若手社会人、他のアラムナイに伝えたいことやアドバイスをお願いします。

是非、自信を持って世界に飛び出してください。そうすることで、皆さんも視野が広がり、多くの経験を持ち帰ることができます。皆さん一人ひとりが自分の壁を破り、世界を、そして故郷を変えていくことを願っています。

ケコア・エーバー

「私にとって最も重要な収穫は、このプログラムによって、自分が日米関係に貢献できる方法を発見できたことです」

ハワイ、沖縄、中国に親族を持つケコア・エーバー氏のアジアと日米関係に対する情熱と興味は、TOMODACHIプログラムによって培われたものです。TOMODACHIプログラムに参加した後、東アジアに焦点を当てた安全保障問題への理解を深めたいと思うようになりました。現在、安全保障政策学の修士課程に在籍し、アジアの安全保障と国際情勢について研究しています。

プログラムから学んだことは何ですか?

このプログラムから得た最も大きなものは、自分が日米関係にどのように貢献するため、何ができるかを発見し、明確にできたことです。また、プログラムで多くの素晴らしい人々と出会い、人脈を強化することができ、学業で使ったスキルを他の人々をつなげるために活用することができました。

将来の目標を教えてください。また、今後の日米関係に関してはどのように考えていますか。

私の最も直近の目標は、修士号を取得し、安全保障政策、政府関係、アジア、日米関係への関心を自分のキャリアに生かすことです。また、学んだことを応用して、米国の立法過程についてさらに学び、より良い政策を作るために政府と協力していきたいと考えています。

あなたにとってTOMODACHIとは?

私にとってTOMODACHIとは、コミュニティです。人々との出会いは機会をもたらし、同じような関心を持つ人たちとのつながりや友情を生み出します。TOMODACHIは、私が参加してよかったと思えるコミュニティであり、これからも前進し続けたいと思っています。

サムサラ・カウンツ

「TOMODACHIの経験は、私が倫理と技術を追求するための大きな原動力となりました」

サムサラ・カウンツ氏は、ソフトウェアエンジニア、研究者であり、技術分野の多様性を支持しています。人工知能の公正さに関する研究で賞を受賞しています。TOMODACHIプログラムでは、ジョージワシントン大学の仲間と沖縄を訪れ、平和と正義のためにテクノロジーを利用することを追求するよう、背中を押されました。

TOMODACHIプログラムで印象に残ったことは何ですか?

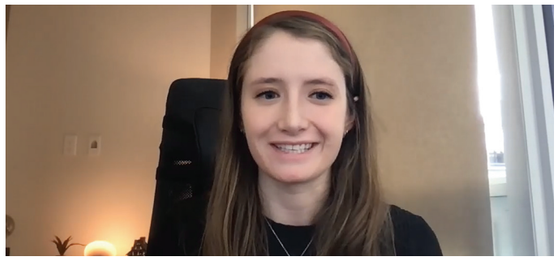
東京での外務省のプレゼンテーションは、私たちに日本における平和主義という価値観について教えてくれました。そして沖縄平和記念博物館にて、沖縄戦の生存者の人の証言を聞くという一生に一度の機会で、私の人生にも深いかかわりをもたらしました。彼のストーリーを聞いて、私は自分が人として、アメリカ人として、コンピューター科学者として、影響を与えることができる全ての分野において平和主義を積極的に支持していこうと決意しました。

TOMODACHIプログラムでの経験は、あなたの関心やキャリアに影響しましたか?

第二次世界大戦の被害を見聞きしたことで、私は倫理的な技術や技術による被害を軽減することに情熱を持つようになりました。沖縄訪問の後、私はコンピューターサイエンスの道に進み、公正さと説明責任の研究に興味を持つようになりました。TOMODACHIの経験は、私が倫理とテクノロジーを追求するための大きな原動力となりました。

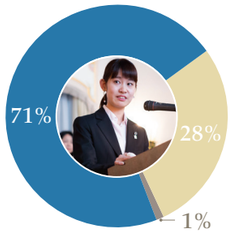
将来、日米関係にどのように関わりたいですか?

当面は、TOMODACHIのプログラムを通じて知り合った友人たちと、今後も交流を続けていきたいと思っています。もっと大きな面では、海外の共同研究者と交流し、日本や世界中の研究者と一緒に研究する研究者になりたいです。また、日米間や米国の大西洋横断的な外交政策に、技術に関する情報を提供したいです。



TOMODACHI世代について

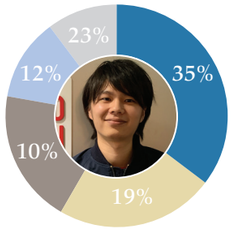
リーダーシップ



より多くの女性が
リーダーシップの機会を
得ることができた

● 女性 ● 男性
● ノンバイナリー

キャリア



より多くのアラムナイが
ビジネスに興味を持ち、
またはビジネス活動を
行った

● ビジネス ● 教育 ● その他
● 非営利団体 ● 政府

TOP 3 興味のあること

多様性、平等、インクルージョン
若者のエンパワーメントおよび教育改革
リーダーシップ、マネジメント、ガバナンス

23-29
現在のアラムナイの
平均年齢

アラムナイ アクション

25%
新規プロジェクトまたは
ビジネスをスタート

32%
キャリアまたは
研究分野を決定

17%
メンターを求めた
またはメンターになる

29
勉強または
ボランティア活動に参加

40
新規プロジェクトまたは
ビジネスをスタート

61
語学学習を継続

92
自国または
他の文化を勉強

27
メンターを求めた
またはメンターになる

51
キャリアまたは
研究分野を決定

51
就職または
留学を決定

16
キャリアまたは
研究分野の変更を決定

調査サンプル：194名のアラムナイによる回答（2021年7月1日−8月1日の期間）

米日カウンシル（U.S.）および米日カウンシル−ジャパンは、在日米国大使館と協力し、官民パートナーシップであるTOMODACHIイニシアチブを管理・運営します。プログラムの開発と管理、コミュニケーションと普及活動、マーケティング、活動資金調達、寄付者との折衝などを主な活動としています。米日カウンシル（U.S.）は、ワシントンD.C.に本部を置く501（c）（3）非営利非課税組織で、日米のあらゆる世代の人と人をつなぐ活動をする団体です。米日カウンシル−ジャパンは、東京で設立された公益財団法人です。米日カウンシル−ジャパンと米日カウンシル（U.S.）は別組織で、それぞれ独立した理事会によって運営されますが、双方が緊密に協力してTOMODACHIを運営しています。

米日カウンシル−ジャパン理事会（2021年12月末日現在）

理事会役員

スザンヌ・バサラ *代表理事*
米日カウンシル会長兼 CEO

ローヤン・ドイ *代表理事*
コーポレート ガバナンス スペシャリスト

片山隆一 監事

理事

スタン・コヤナギ
オリックス株式会社 取締役 兼 常務執行役 グローバルジェネラルカウンセル

ジェニファー・ロジャーズ
アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社ゼネラル・カウンセル・アジア

ゲイリー・S・モリワキ
ウィンデルズ・マーク・レイン・ミッテンドルフ法律事務所パートナー

谷 美由紀
モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社 エグゼクティブディレクター

大出隆
学習院女子大学国際学研究所 顧問

髙田ヘンリー聖一
シンテックジャパン株式会社 代表取締役

米日カウンシル−ジャパン評議員会（2021年12月末日現在）

評議員会役員

キャシー・松井 *会長*
Mパワーパートナーズファンド L.P.、ゼネラル・パートナー

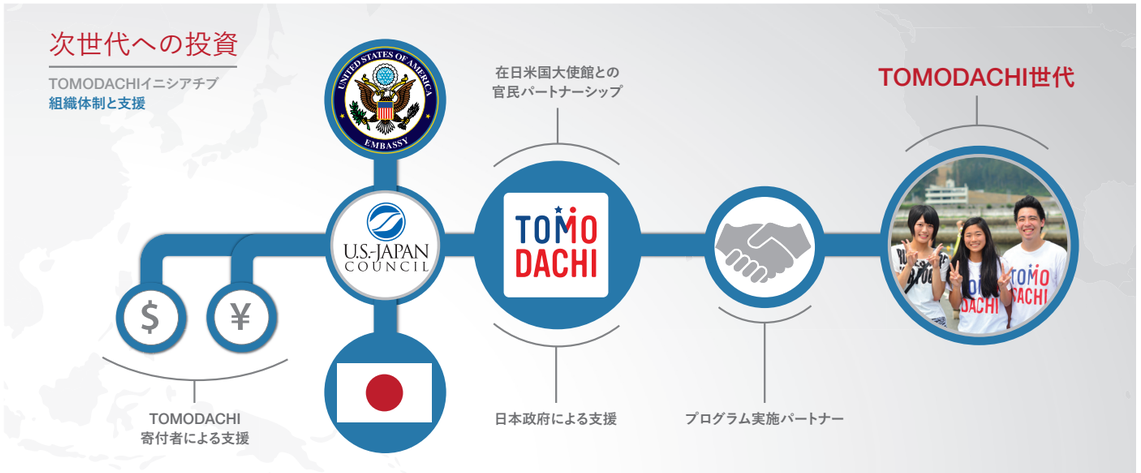
評議員

藤井 ダニエル 一範
トラスト・キャピタル株式会社
代表取締役社長兼CEO

ウィリアム・アイアトン
ソニー・ピクチャーズ
インターナショナルプロダクションズ 日本代表

大河原 愛子
株式会社デルソーレ 代表取締役会長

米国法人の米日カウンシルの理事および評議員のご支援にも同様の感謝を申し上げます。各位のお名前はこちらからご覧いただけます。
https://www.usjapancouncil.org/board-of-directors-us/ | https://www.usjapancouncil.org/board-of-councilors/



「私にとって「TOMODACHI」とは、すでに理解していると思っている関係性について学ぶ意欲です。
TOMODACHIのプログラムに参加し、日米関係には様々な側面がある事を学びました。
多くの要素を持つ広域に渡る関係性であることを、私自身も理解し始めたばかりです。」

ミッカ・ケイ・マクドナルド氏

感謝を込めて

ファウンディング・ストラテジック・パートナー

（2012年創立当初より$1,000,000以上）

ストラテジック・パートナー

（$1,000,000以上）

協賛企業

（$100,000 から $1,000,000）

支援企業

（$10,000 から $100,000）

エクソンモービル・ジャパン合同会社
早坂毅税理士事務所
株式会社帝国ホテル

公益財団法人 公益法人協会
あずさ監査法人

オリック・ヘリントン・アンド・サトクリフ
外国法事務弁護士事務所
トライコー株式会社

高まるTOMODACHIの広がり

さまざまな形でTOMODACHIの知名度を高め、幅広くご周知いただいております。数多くの企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。

TOMODACHIロゴを機体にデザインした全日空機

羽田空港内の各所に設置されたTOMODACHIの看板

実施運営パートナー

TOMODACHIではプログラム運営にあたり、パートナーとして多くの実施団体と協力して、次世代を担う若い世代に、人生の転機となるような機会を提供しています。2021年にはTOMODACHIの資金提供により、以下のパートナーがプログラムを実施しました。

Children's National Medical Center | Cultural Vistas | 特定非営利活動法人エティック | ニューヨーク州立ファッション工科大学 | 一般財団法人SFCフォーラム | 公益社団法人日本国際生活体験協会 (EIL) | 一般財団法人日本国際協力センター | NPO法人じぶん未来クラブ | ローラシアン協会 | リーハイ大学 | ルミナラーニング | パーソンズ・ニュー・スクール・フォー・デザイン | ライス大学 | テンプル大学 | マサチューセッツ大学ボストン校 | ワシントンセンター

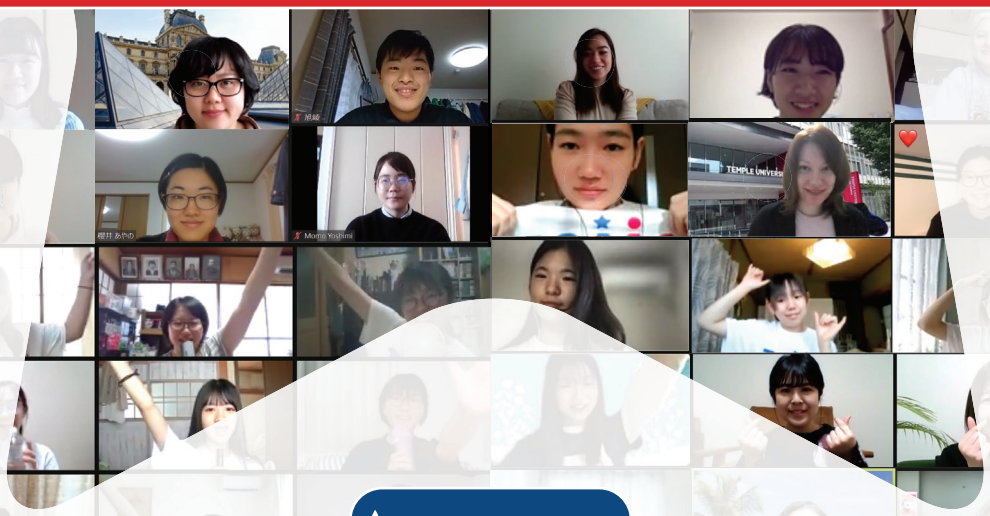
TOMODACHI決算概要

TOMODACHI累計寄付額（各年）（米ドル建て）
米日カウンシル（連結）

TOMODACHI への寄付金および誓約寄付金	2011-2020	2021	2022-24（誓約済み）	TOTAL
米日カウンシル–ジャパン	$34,657,149	$353,193	$902,564	$35,912,905
米日カウンシル（U.S.）	23,186,590	543,808	450,000	24,180,398
小計	57,843,739	897,001	1,352,564	60,093,303
現物寄付（U.S.およびジャパン）	5,239,611	0	20,000	5,259,611
寄付金および誓約寄付金の総合計	$63,083,350	$897,001	$1,372,564	$65,352,914

TOMO DACHI

@TOMODACHI @USJapanTOMODACHI @USJapanTOMODACHI @TOMODACHI_initiative



tomodachi.org